

科目名	文化解釈論
開設学校名	岐阜大学
講師	地域科学部 教授 内田 勝 (うちだ まさる)
初回予定日	10月1日(金)
授業時間	毎週金曜日 1時限目(8:45 - 10:15) (全15回)
主会場	岐阜大学柳戸キャンパス 地域科学部 301教室
聴講方法	対面授業
科目内容	この講義では、活版印刷文化について、というか「書物」そのものの持つ意味について考えてみます。通常こうしたテーマで講義をすると、声の文化と文字の文化の比較・活字メディアと電子メディアの比較といったメディア論寄りのものになりがちなのですが、ここでは特に書物がどう読まれ、書かれてきたかに着目することで、文学史・文学批評の面からも迫ってみるつもりです。本が好きでたまらない人だけでなく、本を1ページ目から順番に読んでいくのが苦痛でつい途中で飛んでしまう人、後ろから読んでしまう人、挿し絵だけパラパラ眺めてしまう人、最後まで読み切れなかった本が本棚に並んでいる人、近頃さっぱり本を読まなくなった人、そんなあなたのための講義を目指します。
注意事項	10月28日は木曜日ですが、金曜の講義を実施します。 新型コロナウイルス感染症の状況により日程や聴講方法に変更が生じる場合があります。

#### 授業の開催日程

回	日付	講義テーマ
第1回	10月1日	授業のおおざっぱな案内。
第2回	10月15日	本の定義のようなもの。
第3回	10月22日	本の歴史を大急ぎでたどってみる。
第4回	10月28日	活版印刷術が出現したことの文化的な意義を考える。
第5回	11月5日	日本の書籍業界の問題点について考える。
第6回	11月12日	『はてしない物語』を題材に、のめり込む読書を考える。
第7回	11月19日	本を書くことについての本『トリストラム・シャンディ』を紹介する。
第8回	11月26日	ハイパーテキストについて考える。
第9回	12月3日	ハイパーテキストと究極の図書館のようなものを考える。
第10回	12月10日	本棚に並べられた本について考える。
第11回	12月17日	日本の電子書籍の現状を語る。
第12回	12月24日	いわゆる教養としての読書を複雑な思いで語る。
第13回	1月7日	読書と教養と立身出世についてさらに語る。
第14回	1月21日	本との付き合い方あれこれ。
第15回	1月28日	授業のおさらいのようなもの。